

山光組 噂のあれこれ

今度の保険金事件で、山光組はすっかり有名になってしまった。そこで聞き書シリーズ最終回は、山光組にスポットをあてて、いろんな人から話を集めてみました。

山光組はこんな事件がおきなくても、仲間ではかなり有名でした。労務者渡世の十三号にも「クタオチ飯場ベスト5」という投票があつて、その4番目に次のように書いてあります。

「山光組（尼崎市守部）立花駅。単価三五〇〇円、めし代七〇〇円。日本員大のクタオチ。このオヤジも大き

い外車にのっている。諸式ビール三〇〇円、酒三〇〇円、ラーメン一〇〇円、軍手一〇〇円。めしは子供のおやつ程度。もちろん人夫出し。」

投票では尼崎市守部とありますが、今は地名変更で同市南武庫之荘9丁目となっています。それから最寄駅は国鉄立花駅でも阪急武庫之荘駅でも距離はあまり変わりません。

さて、このシリーズ第一回に登場した自分良しの手配師の乙さんは、山光組についてこう言っています。

「尼崎の武庫之荘や言ひたら、誰も車に乗りまへんのや。

武庫之荘には他にも飯場がよおけおまつけど、何せ山光と三井建設がカタオチで有名でっしゃろ。そやさかい他の飯場まで同じように思われまんねんや。あの方面の手配はやりにくいですわ。

三井建設というのは、やはり人夫出し飯場で、山光組社長光本健二郎の実弟（？）がやっているのだそりで、こちらも同じようなクタオチ飯場だという噂です。

山光組の手配師はモチロン、釜にも来ていました。グリーンのマイクロボスで、センターの中には入らず、尼崎II平野線が整備される以前、道路沿いにズラリと手配師の車が並んでいた頃、センターからずっと離れた一番東のほうに、三井建設の事務所があった。三井建設、人夫出し飯場、大寅西店の前あたりです。山光と三井と同じような車が二台いたのを見たことのある人は多いと思います。

いつも運転手をふくめ、二、三人が手配に来ていて、社長光本の息子もよく来ていたようです。この息子も外車を持っていて、昨年の秋ごろ尼崎市今北にスナック喫茶を開店したという話です。

ところで今度は、ヤ公関係の情報に詳しいTさんの話です。

「センターの近くは酒梅のシマやんけ。あつとに車置こり思つたら、梅に上納金出さんならん。光本のオヤジ

かて金出せ言われたんや。そんなもん出せる筋とちがうやんか。光本は山口組系やからな。そんでセンターから一番遠いところに車止めてんのや」

そういえば、今度の事件の新聞記事の中にも、暴力団山口組系小西一家二代目清水組相談役、光本健二郎こと李都華（五〇）と、ちゃんと書いてありました。

それにしてもこんな話を聞くと、はたらく仲間の気持とは無関係に、労務手配のウラにヤ公の縄張りがあるらしいのが判ります。暴力団幹部の建設会社は山光組だけではないのです。これは氷山の一角にすぎません。

暴力団幹部というのと、どうしても見るからにこわそうな見かけの男、オヤジは色の黒い男で、見た目にはそれほどではありません。新聞の写真を見た人は、きつと誰かに似てるなアと思ったことでしょう。

そうです。コメディアン横山プリンによや似ているのです。本人もそれをよく自覚していて、似ていると言われると機嫌が悪いそうです。もっとも、こんなこと書いたらプリンさんの方だっていい気持はしないかもしれませんね。失礼。

光本は顔に似合わず（失礼というべきかな）歌がうまいそうです。バアかアルサロかしりませんが、光本の歌を聞いたことがあるという人の話によると、演歌が得意

だそうで、マイクをもたせたら仲々はなそないそうです。やっぱり金使って道楽してる奴は歌もうまいなアと、その人は言っていました。その金はどうやってもうけたんだ、と、ヤボな横笛を入れてみたくありませんね。

七月十六日読売新聞夕刊によると、今度の詐欺事件が明るみに出たあとで、

「兵庫県職業安定課、尼崎公共職業安定所は（山光組が）四十八年四月に設立登記をした際、事業目的を土木建築請負業、不動産の売買並びにあっせんとしているのに、労働大臣の許可をうけず「作業員貸し」をしていた事実が明らかになったため、近く同社を職業安定法違反の疑いで立入り調査することに決めた。」

と書いています。これだと山光組が人夫出しをはじめたのは四十八年からのように受けとれますが、とんでもありません。それよりずっと前からやっていたのは、だれでも知っている事実です。

四十八年四月というのは、山光組が現在のところに移ってきた日づけではないでしょうか。その前は尼崎市常松字野元という所に飯場がありました。今の場所より北へ二キロ余り離れた所で、山陽新幹線が武庫川を渡る少し手前のすぐ南側です。

近所のSさんに聞いてみました。

「そうですねえ、野元に飯場が出来たのは、四〇年より後、四三年までの間とちがいますか。あの土地は伊丹が豊中か、とにかく尼崎の人ではないお医者さんの土地やったらいいですわ。それが建設業者の資材置場か何かに貸しはったのを、借りた人が又貸したもんやから、それでいろいろもめたらしい言うことですよ。」

たぶん、又借りたのが山光組なのでしょう。Sさんの話から想像すると、もめたのは立退き問題がからんでいたのではないのでしょうか。とにかくそんなに前から山光組は人夫出しをしていたのです。

もう少しSさんの話を聞きましょう。

「何とか組常松工作所という看板が出ていたのはおぼえています。あれが新聞に出た山光組ですか。いいえ、別に怖いとか気味悪いとかいう感じはありませんでした。しかし別の証言もあります。当時、山光組から人夫を借りていた或る建設会社の世話役Kさんです。

「あの飯場は昼でも薄暗かったな。中へ入ると異様な臭いがしたわ。布団なんか干したくないんだな。食堂なんか汚なくて油虫がゾロゾロとったな。今の所へ移っていくらかましになったんやないか。あのころは松板のゴキブリ、型枠なんかを使った堀立小屋じゃったからのう」

今の南武庫之荘の飯場はプレハブです。では常松にいた頃のことを、もう少しKさんに聞いてみましょう。

「そりゃア人夫出しやからな。あんまりいい手はおらんやったな。年寄り、病人、精薄、それから手足が満足でなかつたりなア。あれだけ賃金が安かったら人も集まらんだろ。四七年ごろで単価二千八百円、飯代七百円だったかな。ま、餓く気もしなくなるわなア。ウチは一人当り六千円ぐらいはらったから半分以上のピンハネじやのう。みんな残業をいやがったわ。ウチでは残業の分の賃金もちゃんと山光にはらったが、本人には渡つとらな。」

入れてしまひよるんだ。」

悪名高き山光組の評判は前から悪かったようです。山光の車に乗る人が少なかったのもうなずけます。山光では梅田などで一本ツリもやっていたようで、一時は女の手配師もおいっていたそうです。

勿論、山光だって病人や老人ばかり集めていたわけではないでしょう。聞くところでは何年もこの飯場にいら人もいます。

こんどの事件のサンケイ新聞の記事のなかに次のような談話があるのは、たぶんそういう古顔の一人でしょう。「この日は、作業員はほとんど、仕事にでており、一人

しか残っていなかった。その従業員の話では、別にプレハブの娯楽室もあり、「娯楽室にはちゃんとクーラーもついており、設備は整っている。タコ部屋のようなことはない」という」（七月十五日 夕刊）

新聞には書いてありませんが、山光組にいたことのある仲間の話だと、娯楽室にはギャンブルマシンがおり、帳場で小銭の両替もしてくるそうです。この前貸しは、初めの三日間は五百円で、それ以後は千円だそうです。その前貸しもギャンブルで吸い上げてしまつもりなのでしょう。

「飯場はプレハブ二階建てで、三棟あり、約五十人が入居、六畳間に三人ずつ入っている」

同新聞には写真も出ていますが、それを見ながら、仲間のBさんに話を聞くと、新聞とはいささか違います。

写真の建物は二階建（十間×四間）の大型プレハブで、二階は労働者の部屋、下は、手前の山光組という看板がかかっている所が帳場、次が食堂、それから牧草場になっています。一番奥がまた労働者の部屋です。

Bさんの話によると、この部屋には二段ベッドが、二列にスキ間もなくぎっしり並んでいて、寝返りをうてば、となりに寝ている人の腹をけりそうだということです。

室内の通路は二列のベッドの間に、体を横にしてやっと通れる位なものだそうです。

それでも部屋の隅にテレビが一台あるそうですが、奥の方のベッドの人は寝たままでは見られませんか。六畳に三人の割り合いよりもっとひどいわけですか。

人夫出しは、人を貸してピンハネするのが商売ですから、労働者を大勢おくほどもうかるのです。といって次と建物をふやしては、外車をのり廻すもうけはありません。だからせまい部屋に一人でも余計につめこむのは人夫出し飯場のやり方です。こんなことは、だれでも知っていることで、わざわざ書くほどのことでもないでしょう。

山光組の場合、建物が三棟もあるので、古い者と新しい者、長期の者と短期の者で部屋も区別してあるのです。そして、サンケイ新聞の記者さんは、Bさんが話してくれたような部屋は見逃してしまつたのでしょう。

今度の事件は新聞によると、

「病弱な作業員に替え玉を使って生命保険をかけ、死亡後、計一億二千五百万円を大手保険会社二社から詐取……他の出かせぎ作業員数人にも保険契約をしようとして未遂に終っており、人の生命を道具にした極めて悪質な知能犯罪で、詐取した保険金の一部は組の資金源

にしていたとみて余罪を追及している」(読売新聞 七月十五日夕刊)

ということなのですが、保険の契約が昨年十月、もとも体の弱かった被保険者のAさんが急性アルコール中毒による心不全で死亡したのが同十二月三日。「第三者が故意に多量の酒を飲ませたり、無理に働かせて死期を早めたりした疑いもある」そうです。

またこの飯場では、Aさんをふくめて半年間に四人へサンケイ新聞によれば四年間に八人)も死んでいるので、警察ではその死因を全部洗い直すといっています。「このなかには殴られたとみられる者もいたが、死亡診断では、心不全になっていたという」(サンケイ新聞 七月十五日夕刊)

人の生命を虫ケラほどにも思っていないやり方です。どんな顔をもっていたらこんなひどいことを考えつくのでしょうか。人間のすることとは思えません。

山光組の今までのやり方、安い賃金、ギューギュー詰めの飯場、少くてマズイ食事では人は集まりません。集まるのはタオチと知らずにくる人、よその飯場では使ってもらえない老人や病人です。この飯場で死ぬ人が多いのは、一つはそのためでしょう。もともと弱い人がこんな所に入れば、なお体を悪くするのは目に見えています。

す。タオチ飯場につきものの暴力沙汰もあったことでしょう。

光本健二郎こと李都華が保険金詐欺を思いついたのは、彼の目の前に病弱な労働者がいたからでしうか、そうではなくて、はじめから労働者をタオチモノにすることしか考えていない男だったのでしょうか。

最後にもう一つ、やはり山光組にいたことのあるひとから聞いた話を書きます。

「山光組の長男と日とへう五十すぎの背の高い眼鏡をかけた男でね。言葉つきがていねいで、キミが悪いくらい腰の低い男さ。誰にたいして、おぼつかしくない。何々さんと、ちゃんとサンづけするんだ。噂だと、もとは家庭裁判所の調査委員か何かやっていていうんだね」「ホントですか、それは。そんな人が人夫出し飯場の帳場にいるなんて、チョット信じられないけど」

「噂だからね。どこまでホントか判らない。けど、法律にはヤケにくわしかったね。弁護士も顔負けくらいだね。あれは山光組の法律顧問ってとこだな」「すると今度の事件もその金田って男が入れ智恵したのかな」

「さあねえ。そんな度胸のある男にも見えなかったがネ、

それより、この帳場はとんでもない奴でね。みっともないというか、しみつたれているというか、契約満期で帰る者がいると、どきどきしてたうていうんだ」

「結構じゃないですか」

「満期祝に一ぱいやりましようっていうんだ」

「ますます結構じゃないですか」

「満期の者だってそう思うよ。そこで帳場と二人で近くの飲み屋に行く。働く者にとって満期ぐらいい嬉しい日はないよ。この日のために働いてるようなもんだからね。おまけに帳場が満期を祝ってくれるってんで、腹いっぱい飲む。一生懸命に飲む」

「いい帳場じゃないか。しかし、くっくく、でも一生懸命に飲む」

「そうなんだ。ムリして飲むことはない。勘定は自分持ちだからな」

「何だって? 帳場のオゴリなんだろ」

「とんでもない。満期祝いをしようとはいったけれど、オゴルとは言わなかったってさ。つまり、まんまとたかられたわけだ。ねえ。日本中広しといえど、契約の労働者に酒をオゴラセル帳場はほかにないだろう」

まったく、この親方にしてこの帳場あり、というところでしょう。